

中村欣一郎市長の

# 山椒は小粒でも



## 人はどのオリンピックピックを 記憶に刻むのか

Vol.47



開催の是非や意義、観客の有無、会期中での中止も検討され、まさに紆余曲折のあったオリンピックが終わりました。開催されていた17日間は、新聞やテレビが新型コロナウイルスとオリンピックのニュースに独占されていた。私も「本当にやるのか、やっついいのか」と思いつつ、毎晩テレビにくぎ付けとなり、感動のシーンは番組の中で何度も繰り返し見られ、脳裏に焼き付きました。

歴代の大会がいつどこで行われたのか私が明確に挙げることはできないのは、6歳だった1964年の東京を皮切りに、メキシコシティー、ミュンヘン、モントリオール、モスクワくらいまで。その後は、開催地名は出てくるものの、順番は正確に並べることはできません。シドニーのQちゃんこと高橋尚子さん、アテネの野口みずきさんというように選手と開催地名をセットで記憶しているもの、何年の大会だったのか

までは覚えていません。それはなぜかと考えると、記憶に残る一番の要因は、子どもの頃に見たからだということではないでしょうか。私にとつて、マラソンの裸足の王者アベベは何といつても強烈でした。裸足で走ったのは1960年のローマ大会で、1964年の東京大会では靴を履いて走つての2連覇でした。今みたいに感動のシーンが繰り返し放送される時代ではありません。実際に走っている映像はおそらく見えないにもかかわらず、小学校の教科書に載つた彼がゴールするシーンが、私の中のオリンピックとして記憶に刻まれていきます。

東京2020オリンピックは、どんなシーン、誰の言葉が子どもたちの心に刻まれていくのでしょうか。



写真提供:公益社団法人  
日本フェンシング協会

イコール  
パートナーシップ

Vol.142

**トラガール**

市民課人権・市民交流係  
☎ 1126

「トラガール促進プロジェクト」を「存じ」でしょうか。

『トラガール』とは女性トラックドライバーのことで、トラック運送業界における女性の活躍を促進するために国土交通省自動車局が名付けたものです。

トラック運送業界は他業種に比べて女性の進出が遅れており、平成25年の調査では、トラックドライバー全体のうち女性が占める割合はわずか2.4%(約2万人)にとどまっています。

現役的女性ドライバーからは、女性であることのみを理由に就職を断られた、配送先などにおいて女性用トイレが整備されていない、子どもがいると働きづらいといった声が上がっており、女性を雇うことについての経営者の意識改革や、女性が働きやすい労働環境の整備、業界イメージの改善が喫緊の課題となっていました。

このため、「トラガール促進プロジェクト」と称し、ホームページでトラガールが働く日常の紹介を行い、女性トラックドライバーが使用できるトイレ一覧を掲載するなどして、女性にとつて働きやすい環境整備を進めています。

トラックを思い思いの姿にデコレーションした『デコトラ』を運転する女性がメディアに登場するなど、トラック業界での女性の活躍が、少しずつ取り上げられるようになってきています。

「コロナ禍による外出自粛で通信販売など配送サービスを利用する機会が増えている今、あなたが受け取った荷物を運んできたのも、トラガールかもしれない。